



LAZONA^{ラゾーナ} 藤尾歴史散歩

藤尾学区まちづくり協議会 歴史文化部会



第10回 大谷町の蟬丸神社



大津で蟬丸さんと呼ばれる神社は、現在旧東海道沿いに三社あります。関蟬丸神社上社（旧上片原町）、同下社（旧関清水町）の二社と大谷町の蟬丸神社です。大谷町の蟬丸神社は、江戸時代（1658年）に下社を勧請したと言われていますが、本来は逢坂山を守護する道祖神を祭祀したのが始まりだと考えられ

ます。社伝によれば、朱雀天皇の天慶 9 年（946 年）に蟬丸を主祭神として祀られたとされており、後に逢坂山の関明神と合祀したとする説をとる人もあります。蟬丸は平安中期の歌人で、琵琶法師として知られ醍醐天皇の第四皇子でした。盲目のために逢坂山に隠れ住んだと伝えられ、音曲芸道の祖神として芸能に携わる人々に信仰されました。



今も謎多き音曲・芸道の祖神



神社本殿の脇に小宮があり、平成 20 年春の蟬丸神社の改修工事の際に見つかった軒札によれば、伊勢天照光大神宮との記載があり、地元の楠井喜代治氏所持の一里塚の絵地図にも、伊勢天照光大神宮が別の場所に描かれており、明治 12 年の鉄道工事に伴う線路敷設で立ち退きとなり、蟬丸神社本殿脇に小宮と称し移転されたことが分かります。（文・松井佐彦）

余話

小倉百人一首では誰もが知っている有名な蟬丸。一体どんな人物なのでしょう…。

実は本名を始め、血筋や生没年さえも不詳とされており正確な人物像は定かではありません。10 世紀頃の人であること、逢坂山に住んでいた盲目の琵琶法師だったこと、式部卿敦実親王に仕えた雑色だったこと、先にも書いた様に醍醐天皇の第四皇子だったなど、様々な逸話が「蟬丸伝説」として残されていますが、そのどれも確実性はなく、今もなお推察の域を出ない謎多き人物なのです。

バックナンバーご希望は市民センターまで

